

# 華頂短期大学

平成18年度第三者評価  
機関別評価結果

平成19年3月22日

財団法人 短期大学基準協会

## 華頂短期大学の概要

設置者	学校法人 浄土宗教育資団
理事長	水谷 幸正
学 長	中野 正明
A L O	田中 嗣人
開設年月日	昭和28年4月1日
所在地	京都府京都市東山区林下町3-4-5-6

## 設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
社会福祉学科		280
生活学科		150
幼児教育学科		150
	合計	580

## 専攻科および入学定員(募集停止を除く)

なし

## 通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

## 機関別評価結果

華頂短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成19年3月22日付で適格と認める。

## 機関別評価結果の事由

### 1. 総評

平成17年7月23日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

伝統ある浄土宗の宗門系学校として、建学の精神・教育理念や教育目標はしっかりと伝承しつつも、時代や社会の変化にも対応し、各学科の目標は点検されてカリキュラムを変更するなど適切に具現化している。各学科はそれぞれ特色を発揮して教育効果を上げるなどの努力をしていることが十分に看取される。新入生に対しては、「フレッシュマンの集い」、「マイデビューブック」など建学の精神を理解させる工夫がなされている。

教育課程は、学則を遵守し体系的に編成され、学生に明示されている。また、授業内容、教育方法の改善については努力がなされており、授業評価を毎年度実施するなど、今後とも組織的、継続的な活動を一層展開されることを望む。

教育環境の完成度は高いレベルにあるということが出来る。教員と事務職員との連携がとられ、学生にとっては、非常に快適な学び空間が構築されている。車椅子を使用する学生のための施設もほぼ完備されている。今後計画されている新しい校舎の建築によって、さらに素晴らしい学習環境が実現されると想像できる。教育環境は極めてよい短期大学であると評価できる。

教育目標を立て、その目標の実現に向かって、教職員が常に努力する姿勢がうかがえる。その努力によって、専門職への就職率も高くなっている。さらに資格取得に関しても、各学科の特徴をいかした多様性と柔軟性を兼ね備えた取組みがなされている。

入学に関する支援、入学後の学習支援、学生生活面での支援、そして進路指導と、入学前の情報提供から卒業・就職までに至る支援が充分になされているといえる。

教員の3年間の研究業績からみて研究活動は、おおむね着実に展開されている。研究活動状況は紀要や特定分野の研究報告出版物で公開されている。授業科目や教育実践に関する研究を重視しており、定期刊行物出版助成金制度を設けて研究成果の報告を奨励し

ている。個人研究費、実験室、研究室なども整備されており、研究活動活性化の条件は十分に整備されている。

京都市教育委員会との「学生ボランティア学校サポート事業における学生の派遣」の協定が締結され「みやこ子ども土曜塾」に協力している。宗門学校の特色や信頼関係も相伴って行政各機関、地元諸団体との連携も強く地元貢献や社会的活動は積極的である。

創設以来95年の歴史伝統をいかしながら、平成14年に学校法人浄土宗教育資団と合併し、古い管理体制から脱却し、現代的な学校管理運営へと進んでいる。

学校法人浄土宗教育資団による浄土宗という伝統ある宗教を背景として昭和28年4月より宗門立学校として設立されている当該短期大学は、常に短期大学の発展や改革・改善を追求し、施設などのハード面、カリキュラムや教員の資質向上と熱意ある教育内容のソフト面とともに前進している。

## 2. 優れていると判断される事項など

### (1) 優れていると判断される事項

評価領域 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

建学の精神・教育理念や教育目標をしっかりと伝承しつつも、時代や社会の変化にも対応し、各学科の目標は点検されてカリキュラムを変更し、適切に具現化している。

評価領域 教育の内容

京都市の「京都市学生ボランティア学校サポート事業」への参加学生に単位認定制度を設けている。

評価領域 教育の実施体制

校地の広さおよび立地環境は素晴らしく、短期大学の基準を大きく超えた極めて良好な教育環境を有し、バリアフリー化もほぼ実現している。

評価領域 教育目標の達成度と教育の効果

同窓会組織が確立している。

評価領域 学生支援

特色ある入学前教育プログラムを実施し、また学生サポート事業の一環として「よろずサポート室」などの特別支援が行われている。

評価領域 研究

定期刊行物助成金制度を設けて研究成果の発表を奨励している。特に種々の分野の研究

の定期出版物は、学内のみならず広く卒業生や当該短期大学関係者などに配布しており、研究成果を発表する場となると同時に研究活動を活発化させている。

評価領域 社会的活動

知恩院の設立による宗門学校の伝統と信頼にこたえ、地元および諸公的団体との連携による社会的活動に積極的である。

京都大学大学院などの留学生を含む、20カ国の人々と英語でそれぞれの母国の文化について語り合い、交流している。

評価領域 改革・改善

短期大学の各委員会や教授会などの改善の要望に対し、理事会はすみやかに反応し、学長と協同しつつ、予算的に担保されれば建物、各施設が早い時期に改善されている。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域 教育目標の達成度と教育の効果

一部の教員に成績評価の偏りがみられるので、教員間の意思統一を行うことが望まれる。教育目標の達成を判断するための授業評価アンケートの実施回数を増やすことが求められる。

評価領域 研究

研究業績が少ない教員がみられるので、さらなる努力を望みたい。

評価領域 社会的活動

学生交換など、海外との交流の促進が望ましい。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

## 領域別評価結果

評価領域		評価結果
評価領域	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域	教育の内容	合
評価領域	教育の実施体制	合
評価領域	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域	学生支援	合
評価領域	研究	合
評価領域	社会的活動	合
評価領域	管理運営	合
評価領域	財務	合
評価領域	改革・改善	合

### 評価領域 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

建学精神は「浄土宗宗祖、法然上人の立教開宗の仏教精神に基づいて教育を行うこと」と明確であり、これを反映した教育理念も学則第1条にしっかりと明示されている。

教育目標は「仏教精神に基づき、生命の尊さを深く理解し素直に感謝できる社会人を育成すること」と明確にしている。これを受けて3学科がそれぞれの教育目標を定めており、カリキュラムの変更時などには十分に点検してより充実した教育が行われるように努力がなされている。

授業計画の作成に当たっては、学科会議などで繰り返し教育目標の確認が行われており、学生に対しても期毎のガイダンスで繰り返し説明して教育目標を浸透させている。

伝統ある浄土宗の宗門立学校として、建学の精神・教育理念や教育目標はしっかりと伝承しつつも、時代や社会の変化にも対応し、各学科の目標は点検されてカリキュラムを変更するなど適切に具現化している。各学科はそれぞれ特色を発揮して教育効果を上げるなどの努力をしていることが十分に看取される。新入生に対しては、「フレッシュマンの集い」「マイデビューブック」など建学の精神を理解させる工夫がなされている。

### 評価領域 教育の内容

教養教育の取組みや総合科目・基本科目の開設など、学則23条に基づいて、各学科ともに体系的に編成されている。

各学科ともに多様な免許・資格の取得が可能であり、学生のニーズに応えている。

各学科ともに学則に基づいて履修要項、シラバスを作成し学生に明らかにしている。

自己点検・評価委員会規程によりファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を展開し、改善への努力がなされているとみられる。また学生による授業評価について5段階評価、4段階評価などの方法を試し、その成果を検証される姿勢は大変評価できる。授業評価は隔年でなく毎年度実施し成果を期待したい。なお、単位認定に関して教員の意思の統一を図る費必要があると考え。

#### 評価領域 教育の実施体制

教員組織は、運営協議会、学科長等会などで厳格に計画され、短期大学設置基準の教員数の規定を充足している。また、教員は、短期大学の教員にふさわしい資格と資質を有していることが、聞き取り調査から明らかになった。教員の採用、昇任などにおいても選考基準が整備され、教員の年齢構成も適切である。これらのことを総合的に判断すると、教員組織などは整備されていると判断できる。

校地の広さおよび立地環境は素晴らしく、教育環境として申し分ない。また、講義室、各種演習室も、順次計画的に新しくされ、充実した教育環境が整備されつつある。機器・備品などは教学事務部が、点検、整備し、更新、補充を進めている。また、校舎内のバリアフリー化も、一部を除きほぼ実現している。教育環境は、十分に整備され、多くの学生が快適に活用している。

図書館は充分なる蔵書数、座席数、広さが確保されている。また、将来の蔵書数の増加に対応した空間、学生が多目的に利用可能な空間を準備し、利用者である学生の視点に立った図書館システムを構築している。施設、書物の管理も極めて細かく計画され実施されている。

教育環境の完成度は高いレベルにあるということが出来る。教員と事務職員との連携がとられ、学生にとっては、非常に快適な学び空間が構築されている。車椅子を使用する学生のための施設もほぼ完備されている。今後計画されている、新しい校舎の建築によって、さらに素晴らしい学習環境が実現されると想像できる。教育環境は極めてよい短期大学であると評価できる。

#### 評価領域 教育目標の達成度と教育の効果

ゼミ担当教員、教学事務部、学生支援センターが連携することによって、教育目標の達成への努力がなされ、常に状況を改善するように努めている。教職員の努力によって、退学、休学、留年などの学生数も年々減少する傾向がみられる。単位認定に関しては、一部の教科目で評価分布に偏りがみられるが、教育目標の達成への努力を多方面から実施している。

学生の卒業後評価への取組みの一つとして、採用内定のお礼などで、毎年就職先を訪問

し卒業生の就業状態や評価について、直接聞き取りを行っている。同窓会組織も確立し、全国8支部、会員数2万9千人に達し、同窓会のつどいや同窓会報などによって教育の実績や効果を確認している。また、京滋私立短期大学協会などの組織の中心的役割を果たし、この組織の中で卒業生によるアンケート調査を行い集計している。これらの努力によって、幼稚園、保育所、福祉施設などへの専門就職で高い数値を出している。

#### 評価領域 学生支援

入学に関しては、事業管理部入学広報課が組織的な体制の中できめ細かい情報を提供している。また、入学手続き者へは「入学の手引」の数回の発行、入学前教育プログラムの実施など入学後の準備としての支援をしている。

ガイダンス、フレッシュマンの集い、ゼミ担当者、2年生のアドバイザーなどの説明、そして学習上の支援は、学生支援センターが中心的機能を果たし、様々な問題に対応するなど支援がなされている。特に「よろずサポート室」は特色として挙げることができ、組織的な支援がなされている。

学生支援センター、学生相談室、心と身体のセンターの設置、学内施設の20時までの開校、学生休息施設、食堂なども規模は決して大きくないが、ほかの生活環境を加えて十分な整備がなされている。

進路支援課、就職指導委員会などが組織的に編成され、ガイダンスや対策講座の開放などの支援がなされている。

留学生への授業料の減免、日本語学習の支援、障害者への手話通訳、要約筆記の採用、またノートテイクを実施するなど、多様な学生に対する特別な支援がなされている。

#### 評価領域 研究

教員の3年間の研究業績からみて研究活動は、おおむね着実に展開されているといえる。研究活動状況は紀要や特定分野の研究報告出版物で公開されている。授業科目や教育実践に関する研究を重視しており、定期刊行物出版助成金制度を設けて研究成果の報告を奨励している。個人研究費、実験室、研究室なども整備されており、研究活動活性化の条件は十分に整備されている。

#### 評価領域 社会的活動

知恩院の設立した宗門学校のため、地元商店街、町内会の門前町との交流やボランティア活動も盛んである。学園祭「華頂祭」では地元との一体感がみられる。

学校行事での学生の積極的参加は勿論、地域や地元の行政や諸団体とも密接に連携しつ

つ学生の社会活動を積極的にバックアップしている。

京都大学大学院などの留学生が、当該短期大学生と英語を使いながら母国の文化や風土を話す「20ヶ国の人達と話そうプログラム」に参加している。当該短期大学から短期アメリカ・カリフォルニアへの留学体験も実施している。

京都市教育委員会と「学生ボランティア学校サポート事業における学生の派遣」協定が締結され、「みやこ子ども土曜塾」に協力している。宗門学校としての特色やそれへの信頼関係も相伴って、行政各機関、地元諸団体との連携も強く、積極的に活動している。クラブ活動やボランティアも活発である。

#### 評価領域 管理運営

理事15名の中から選任された理事長を頂点とし、毎年3～4回理事会が開催されている。学校経営について、確固たる組織で管理運営がなされている。重要事項の審議には常務理事会が月1回開催され運営の円滑化を図っている。

月例の教授会と臨時の教授会が年間16～17回開催されている。学科長等会、人事教授会、教学委員会など諸会議で教職員の意見が十分に吸収でき、短期大学の運営、教育学問についてともに討議が実施されている。

事務組織規程、事務分掌規程が整備され、さらにこれを組織図で明示している。ただし、兼務の教職員も数多く、教職員の勤務時間にはかなり負担が大きいのではないかとと思われる。

教員採用には、専任はもとより非常勤教員に至るまで厳格な資格審査が行われている。就業日および時間は1ヶ月の変形労働時間制を採用している。また教員には毎週1日の学外研究日を認めている。

#### 評価領域 財務

中・長期計画に基づく授業計画と概算予算が策定される中で、毎年中期計画を柱として見直しを実施、修正している。予算は各单位から提出され、財務室および予算管理部を通じ予算原案を作成、3月の評議員会、理事会で審議決定となる。

毎年の収支の状況は均衡がとれているが、基本金に組み入れる設備機器、備品、図書などの購入が多いため支出超過の年度が続いている。

平成20年度完成の増築工事の計画が進められているが、施設備品管理のため諸規程が定められ、基準以上の設備・備品、図書、物品類がよく整備管理されている。

ここ数年入学する学生数は減少がみられるので、教職員一丸となつての経営全般にわたる努力を期待したい。

## 評価領域 改革・改善

自己点検・評価委員会規程を整備して自己点検・評価委員会を設置し、各セクションで点検活動が進められている。

各種担当委員会、教員側、事務側も学生の教育環境指導のために誠実に具体策を構築しており、学長の強力な指導力により実行していくシステムが学内に作動していることが看取される。

『華頂短期大学自己点検・評価報告書』が平成13年2月と平成18年6月に刊行され、ともに短期大学評価基準の評価項目全部について詳述している。

当該短期大学は、短期大学の発展や改革・改善を追求し、施設などのハード面、カリキュラムや教員の資質向上と熱意ある教育内容などのソフト面でともに前進している。